

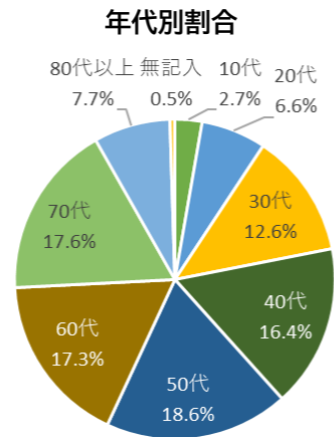
1. 調査対象と回答状況

- ①郵送 : アンケート調査1と同様の近隣住民無作為抽出 (1,000 通)  
: 市内全域の市民から無作為抽出 (3,000 通)

②公園利用者: 公園利用者に現地アンケート (平日休日 12 日間)

【回答状況】 1,205 件

郵送: 1,093 件/4,000 件 (郵送: 824 件/WEB: 269 件)  
現地: 112 件



2. 回答者の基本属性

- 性別は男性が 41.7%、女性が 56.6% だった。
- 年代は、50 代が最も多く 18.6%、続いて 70 代が 17.6%、60 代が 17.3%、40 代が 16.4%、30 代が 12.6%、80 代以上が 7.7%、20 代が 6.6%、10 代が 2.7% という結果だった。

3. アンケート結果分析

① 各案の単純集計結果

各案の単純集計結果のうち、平均点の高い項目 (それぞれ案の「得意項目」) は下記の通り。

A案 中心に大きな広場		B案 豊かな緑の中に小さな広場		C案 大きな広場+様々な機能・サービス	
大人数使用	2.21	みどり癒し	1.99	イベント	1.66
災害時	2.14	自然身近	1.98	複合施設併用	1.54
運動・レク	2.10	草木や花	1.95	災害時	1.53
イベント	2.07	子育て便利	1.63	子育て便利	1.41
子ども	1.69	少人数落ち着き	1.62	子ども	1.29
見通し防犯	1.64	子ども	1.45	みどり癒し	1.2
子育て便利	1.49	無目的滞在	1.37	大人数使用	1.18
みどり癒し	1.33	ユニバーサル	1.17	世代間交流	1.14
自然身近	1.26	生物ふれあい	1.16	自然身近	1.11

※単純集計の表中の数値は、回答(7段階評価)を数値に置き換えた平均値を表す。

② 「自分にとって良い公園」「まちにとって良い公園」に対するプラスの影響(全体・重回帰分析)

自分にとって良い (全体)		まちにとって良い (全体)	
無目的滞在	0.24	子育て便利	0.17
少人数落ち着き	0.14	無目的滞在	0.15
みどり癒し	0.14	みどり癒し	0.13
世代間交流	0.11	ユニバーサル	0.09
見通し防犯	0.10	見通し防犯	0.09
子ども	0.09	駅前賑わい	0.07
ユニバーサル	0.07	災害時	0.07
駅前賑わい	0.06	イベント	0.05
高齢者	0.06	草木や花	0.05
運動・レク	0.05	複合施設と併用	0.05
イベント	0.05	世代間交流	0.05
		子ども	0.04
		大人数使用	0.04

B案が一番プラスの影響の項目の点数が高い  
⇒世代別のプラスの影響から各案が選ばれている理由を分析

③ 世代別の「自分にとって良い公園」に対するプラスの影響(世代別・自分・重回帰分析)

目的変数: 自分にとって良い公園				
	60代以上	30-50代	10-20代	
無目的滞在(B)	0.21	無目的滞在(B)	0.26	世代間交流(C)
みどり癒し(B)	0.21	子ども(A)	0.15	少人数落ち着き(B)
高齢者(B)	0.18	世代間交流(C)	0.13	運動・レク(A)
ユニバーサル(B)	0.14	少人数落ち着き(B)	0.12	みどり癒し(B)
少人数落ち着き(B)	0.13	見通し防犯(A)	0.11	無目的滞在(B)
見通し防犯(A)	0.07	みどり癒し(B)	0.10	イベント(C)

【特徴的だった点】  
10~50代⇒世代間交流

60代以上はB案が多く、50代以下はばらつきがある。

B案をベースにA案C案の良さを取り入れるのが良い?

- B案が支持される理由は、「無目的滞在」「みどり癒し」「高齢者」「少人数落ち着き」であるが、Bが得意とする「自然身近」「草木や花」が好ましさの直接的な理由となっているわけではない。
- 自然や生物そのものではなく、緑による「癒し」や「落ち着き」が大切であり、その結果無目的に訪れやすいと考えられる。

④ 世代別の「まちにとって良い公園」に対するプラスの影響(世代別・まち・重回帰分析)

目的変数: まちにとって良い				
	60代以上	30-50代	10-20代	
みどり癒し(B)	0.17	子育て便利(BC)	0.24	無目的滞在(B)
見通し防犯(A)	0.13	無目的滞在(B)	0.18	世代間交流(C)
ユニバーサル(B)	0.11	みどり癒し(B)	0.12	仕事場利用(-)
子育て便利(BC)	0.09	イベント(C)	0.10	
無目的滞在(B)	0.09	駅前賑わい(-)	0.08	
自然身近(B)	0.08	ユニバーサル(B)	0.08	
災害時(A)	0.07	災害時(A)	0.08	
複合施設と併用(C)	0.07	見通し防犯(A)	0.07	
高齢者(B)	0.06	子ども(A)	0.05	
駅前賑わい(-)	0.05	仕事場利用(-)	-0.04	

【特徴的だった点】  
60代以上⇒見通し防犯  
10-20代⇒世代間交流

各世代とも各案それぞれに良いところがあり、ダントツという案はない。

B案をベースにA案C案の良さを取り入れるのが良い?

重回帰分析の表中の数値は、偏回帰係数といい、「自分にとって良い公園」、「まちにとって良い公園」の評価をするときに、各々の項目がどのくらいプラスの影響を及ぼしているかを表す数値。(有意水準 =5%で有意と認められたものを掲載)。

- B案が支持される理由は、「みどり癒し」「無目的滞在」に加えて「子育て便利」「ユニバーサル」であるが、Bが得意とする「自然身近」「草木や花」が案の好ましさの直接的な理由となっているわけではない。
- 自然や生物そのものではなく、無目的に滞在できて、みどりに癒される、ユニバーサルで子育てに優しいという点に大事にされていると考えられる。

市民の「自分にとって」「まちにとって」良い公園の姿(アンケート総括)

【自分にとって良い公園】

- 誰もがふらっと立ち寄り、緑に癒やされる落ち着いた空間があること、多様な世代にとって過ごしやすく、交流できる場があること、運動やレクリエーションができる広い空間もあり、子どもも思う存分遊べる空間が共存することが望まれている。
- 特に若い世代で「世代間交流」を求める視点が明らかだったが、今回の3案にはその点が明確に評価できるものはなかった。今後の検討で大事に考えるべき。

【まちにとって良い公園】

- 上記に加え、子育て上の利便性、防犯やユニバーサルデザインが重視されるという傾向が見られた。